

光ファイバー網を使って韓国の小学生とともにW杯韓国-米国戦を応援する児童（大阪府藤井寺市）

韓国-米国戦 TV会議システム利用



十日のサッカーワールドカップ（W杯）韓国-米国戦で、日韓の小学校がテレビ会議システムを使って互いの教室での応援風景を中継、韓国チームに声援を送った。画面を通じて相手の表情や応援ぶりが伝わり、文字で会話をするインターネットの「チャット」でメールも交換。日本側からは「韓国が身近に感じられた」との声が聞かれ、小さな親善大使が交流ムードを盛り上げた。

日韓小学生、仲良く応援

藤井寺の小学校 交流ムード盛り上げ

W杯 2002

情報技術（IT）を駆使して共同応援したのは、大阪府藤井寺市の市立道明寺南小学校（森口

弘二校長）と、韓国・金海市の翰林初等学校（李力煥校長）。今年三月、文部科学省などの事業として光ファイバーでつなぐテレビ会議システムが道明寺南小に導入され、昨年からの電子メールやり取り取りしていた翰林小とのW杯応援が決まった。道明寺南小では教室に六年生約八十人が赤いTシャツ姿で集まり、テレビで観戦。「応援係」の児童がハンゲルで「負けるな」と書いたプラカードを掲げ、「いんぞ」「チ

ヤンス」などと掛け声をのまま逆転だ」と打ち込む。韓国側ではハンゲルに翻訳されたメッセージが読める仕組みだ。韓国の児童からは「気持ちのいいゴール」「私たちの応援が見えますか。そちらの姿はよく見えます」などの返事があり、最後は「アンニョンハセヨ（こんにちは）」とあいさつを交わした。チャット係の馬場美沙さん（11）は「韓国の小学生と『会話』ができてうれしかった。距離は遠いのに近い感じがする」と笑顔。大原英雄君（12）は「これからも韓国のことを勉強したい。いつかは韓国を訪れて色々なことを教えてもらいたい」と話していた。森口校長は「リハーサルなしで不安だったが、共同応援を通じて子どもたちが一つになれたのではないかと手応えを強調。十四日に大阪・長居スタジアムで開かれる日本-チュニジア戦も、今回と同じ形式で日本代表を応援する予定だ。